

今日の講話を聞いて、子供たちにとって「養護教諭」がどれだけ重要な存在であるかが理解できました。そこから、子供たちのためにすべきことについてこれからも考えていきたいと感じました。また、情報共有の大切さも印象に残りました。

自分も学生生活の中で思ったように、子供達には友達が大切であることを改めて理解することができました。そのため、友達との関係が悩み事になることが多いと思うので、生徒同士の交友関係を把握しておくことが重要であることが分かりました。

本日の講話を通して、養護教諭の仕事の大変さを感じたと同時に、その仕事のやりがいや魅力を改めて感じるすることができました。また、様々な立場で働かれた経験をもつ小西先生だからこそわかるそれぞれの仕事の大変さ、それぞれの立場からみた養護教諭の役割やイメージなど知ることができとても勉強になりました。加えて、児童・生徒から本音を聞けたとき、その内容が管理職と共有した方がよいと判断した時の対応など具体的なことが分かり深い学びとなりました。

今日の講話では、養護教諭以外の職員の仕事内容や仕事に対する思いなども知ることができ、とても勉強になりました。

また、記録の大切さについては、万が一何かあった時、日々の記録、クラスの記録、個人の記録と分けてあると、すぐに情報を共有できることがわかりました。そして、養護教諭として、専門分野ではリーダーとなり、責任をもって発言することの大切さを学びました。

実習でも管理職との連携は大切だということを学びましたが、話をするときは、法律や文書などから根拠を示すことが大切なのだとわかりました。また、毎日書いている保健日誌は、傷病の情報だけでなく、その前後の状況も記載して管理職に伝えることが、問題の早期発見・早期対応につながるのだと思います。保健日誌が子どもたちの大切な情報のひとつだと知ったので、丁寧に記録することが大事なのだと改めてわかりました。